

# 河内長野市を元気にする提言

1．市民会議の目的と討議経過

2．河内長野市の現状と課題

3．河内長野市を元気にする提言

< 提言概要 > まちづくりの理念と進め方

< 提言 1 > 観光・産業・環境グループ

< 提言 2 > 福祉・教育・全般グループ

平成16年3月31日

河内長野市第4次総合計画

まちづくり市民会議

## 1. 市民会議の目的と討議経過

まちづくり市民会議は平成 18 年度よりスタートする「第 4 次総合計画」を策定するに先立ち「河内長野市を元気にする提言」をテーマに議論し、市民レベルでの提言を行うために市の募集に応募した 17 名のメンバーで構成されました。市の総合計画は今後のまちづくりの将来像を定め、その目標を達成するための施策の方向性を示した「基本構想」と、その実現のための「基本計画」で構成されます。

市民会議は限られたメンバーと期間のため、総合計画策定に反映すべき提言を「あり方（まちづくりの理念やイメージ）」と「やり方（その実現のための施策）」を中心に討議しました。期間は平成 15 年 10 月から平成 16 年 3 月までの 6 ヶ月間に、以下の日程で開催されました。グループ編成は観光・産業・環境グループが第 1 グループ（ ）、福祉・教育・全般が第 2 グループです（ ）。所定の日程以外に両グループで延べ 5 回にわたって会合を自発的に行い、熱心に討議を重ねました。

回	日 程	内 容
第 1	10 月 18 日（土）	市長挨拶、自己紹介、資料の説明、グループの編成など
第 2	11 月 8 日（土）	市民アンケートの調査結果確認、グループ別討議（  ）
第 3	12 月 6 日（土）	グループ別討議（  ）
第 4	1 月 24 日（土）	グループ別討議（  ）
第 5	2 月 21 日（土）	グループ別討議（  ） グループ別素案の発表
第 6	3 月 13 日（土）	グループ別提言のまとめと調整、全体提言へのとりまとめ
第 7	3 月 31 日（水）	提言の全体発表と意見交換、提言と今後の進め方調整

## 2. 河内長野市の現状と課題

河内長野市は昭和 29 年に市制が施行されて以来 50 年、当時 3 万人の人口が現在では 4 倍の 12 万人を越えました。しかし平成 12 年をピークに減少に入り、本格的な少子高齢化が加速する可能性が高くなっています。また商工業の不振も顕著となり、空き店舗の増加や製品出荷額・製造事業所など、この 10 年間で 30% 以上の減少を示す指標が増えています。その結果、市の財政状況も徐々に悪化し 3 度目の財政再建団体への影も忍び寄ってきています。

厳しい環境が予測される一方、安全・安心・快適環境など住民のニーズは多様化し増大しています。そのような中で「まち」が元気になるには、住民の基本的なニーズや地域の課題に対応し「満足感を高めること」が大切です。そしてより多くの住民にとって「魅力あるまちとして誇りをもって住めること」ではないでしょうか。

### 3. 河内長野市を元気にする提言

河内長野市を元気にするため、

## 「総合的プロデュース機能を持った支援組織の立ち上げ」

を提言します。

< 提言概要 > まちづくりの理念と進め方

観光・産業・環境グループ提言

福祉・教育・全般グループ提言

### < まちづくりの基本理念 >

安心して生き生き笑顔で暮らせる  
健康文化都市へ  
(自然と共生・健康と観光のまちづくり)  
歩くまち(ハイキングにきてほしいまち)

こころのふれあいと  
みんなにやさしいまち  
安全で  
元気な子どもが育つまち

### < まちづくりの方針 >

市民と行政はもとより地元企業、  
事業者や近隣の学校との協働が  
必要である

市民と行政が  
協働することが  
必要である

### < まちづくりの進め方 >

まちづくり活動の組織化  
NPO法人化など行政と市民が  
協働できる体制作り  
運営費 基金、ファンドなど

協働を推進するためには  
情報の交換  
人材の育成  
財源  
活動拠点など  
継続可能な支援組織の設立

**総合的プロデュース機能を持った  
支援組織の立ち上げ**

## 「河内長野市を元気にする」第1グループの提言

「観光」と「産業」と「環境」グループ

わたしたちが安心して生き生き笑顔で暮らせる健康文化都市へ

「自然と共生、健康と観光のまちづくり」

めざすまちのイメージは

歩くまち（ハイキングにきてほしいまち）です。

河内長野市のオンリーワンを探しその資源をどう活かすかそれぞれのアイデアを出し合ってきました。 提言資料 - 1 - です

河内長野市は、大阪を一望する岩湧山や千石谷など緑豊かなまちとして存在し、南天の里天見地区、画家が描きたい里山などの自然が多くあります。また歴史的形態からしても府内でも有数の文化財を多く有するまちでもあり、高野街道一つをとっても歴史的に趣深いポイントは多くあります。

しかし、現状は奈良や京都のような名所はないということになりました。おみやげとなる名物、食事処もありません。駅前の空き店舗のイメージダウン、まち中のごみ、PR不足などの問題点も見えてきました。問題点解決には、市民、行政、事業者の協働が必要です。

観光をメインに河内長野市を元気あるまちにと議論を進めてきました。市実施のアンケートにおいて市民の好感度、まちを愛する理由としては自然が多いこと85%と多くの市民が自然を誇りに思っています。また、高齢社会をむかえ健康への不安も多くなっています。

そこで、この自然環境を守りながら活かした、健康をキーワードにした産業であり、観光であることが大切であると考えました。健康なまちのイメージは「歩くまち」です。自然や歴史的遺産に囲まれ笑顔で安心して歩かされるまち、ハイキングにきてほしいまちは、歩くことでふれあいや相手への思いやりを生み、高齢者も子供たちも安全に暮らせるまちになります。

自然と共生し、健康と観光に重点を置いてまちづくりをすすめれば、わたしたちが安心して生き生き笑顔で暮らせる健康文化都市が実現します。

観光資源を守り、保全し活かしていくためには市民と行政はもとより地元企業、事業者や、近隣の学校との協働の必要性があると考えます。

このことを実際に実現に向けて動かす機動力としては、総合的プロデュース機能を持ったまちづくり推進組織を立ち上げる必要があると考えます。

提言資料 - 2 - です

\* なお、今回の議論により河内長野市の環境を活かすアイデアが多く提案されました。資料にまとめましたが、具体的な内容については、要旨を会議経過報告書としてまとめています。

# 安心して生き生き笑顔で暮らせる健康文化都市へ（自然と共生・健康と観光のまちづくり）

## 環境

だれが実現して行くか

## 協働

## 市民(笑顔)

## 産・官・学

## 産業

## 観光

めざすまちのイメージ

### 歩くまち

(ハイキングにきて

ほしいまち)

- ・ 遊学自然の里プロジェクト（里山公園＋市民農園＋河内材ログハウス＋有機食材レストランなどを建設し、環境対策のモデルゾーンとする）
- ・ エコマネープロジェクト（かわちにここにマネー「ほっと」による地域環境改善の促進）
- ・ 国の「自然再生事業」や府の「バイオマスの里構想」との連動
- ・ グリーン庁舎の推進（まず市役所に太陽光発電装置を設置する）
- ・ 不耕起農法による環境改善（まず放置棚田から）
- ・ 近自然工法の河川工事の実現（生き物に好適な環境）
- ・ リタイアメントビレッジ構想（自動車を使用しない）
- ・ 食用廃油精製装置の導入（リサイクル）
- ・ エコステーションの設置（リサイクル）
- ・ 景観条例の制定（アドプト制推進など）
- ・ 防災植樹の促進（寺社林・屋敷林の保全から）
- ・ 山の案内人の育成

<環境における現状の問題点>

- ・ まち中にゴミが多い
- ・ キャンプ場などにもゴミの放置多い

- ・ イキイキ愉快的な地域コミュニティの構築
- ・ 市民ボランティアの活動
- ・ 本格的まちづくり推進組織作り

- ・ 広報活動の活発化
- ・ 市民参画、産官学連携推進
- ・ 府大など大学の研究・シーズを活用
- ・ 地域の地質学者等との連携

- ・ かわちながのまるごと博物館
- ・ 中心に総括機能として「観光」を位置付ける「フラワー菊プラン」の策定
- ・ ビジター100万人プロジェクト（道の駅小型版の整備。河内長野市特産品（つまようじ、つる、南天、ももなど）の「おみやげグッズ」の開発。まちじゅう博物館のシリーズ化。企業の博物館との連携など）
- ・ 名所旧跡を巡る観光ルートの開発（交通機関とのタイアップ。観光バス運行。道路の整備など）
- ・ 観光資源の開発（一面の南天ライトアップ、考古埋蔵品の発掘場所、名家の旧邸、酒蔵、地層など）
- ・ ハイキングコースの開発（岩湧山、高野線廃線跡、天野街道など。ヤング向け・シルバー向けに）
- ・ 関西サイクルスポーツセンターと連携した「自転車のまち」づくりを行う
- ・ 駅前レンタサイクルの整備
- ・ 「体験型」観光（体験（農業など）と食と温泉）
- ・ 高野街道歴史博物館の建設
- ・ 歩け歩け協会行事の誘致
- ・ 絵描（画家）の里構想（芸術村）
- ・ 「食」の提供

<観光における現状の問題点>

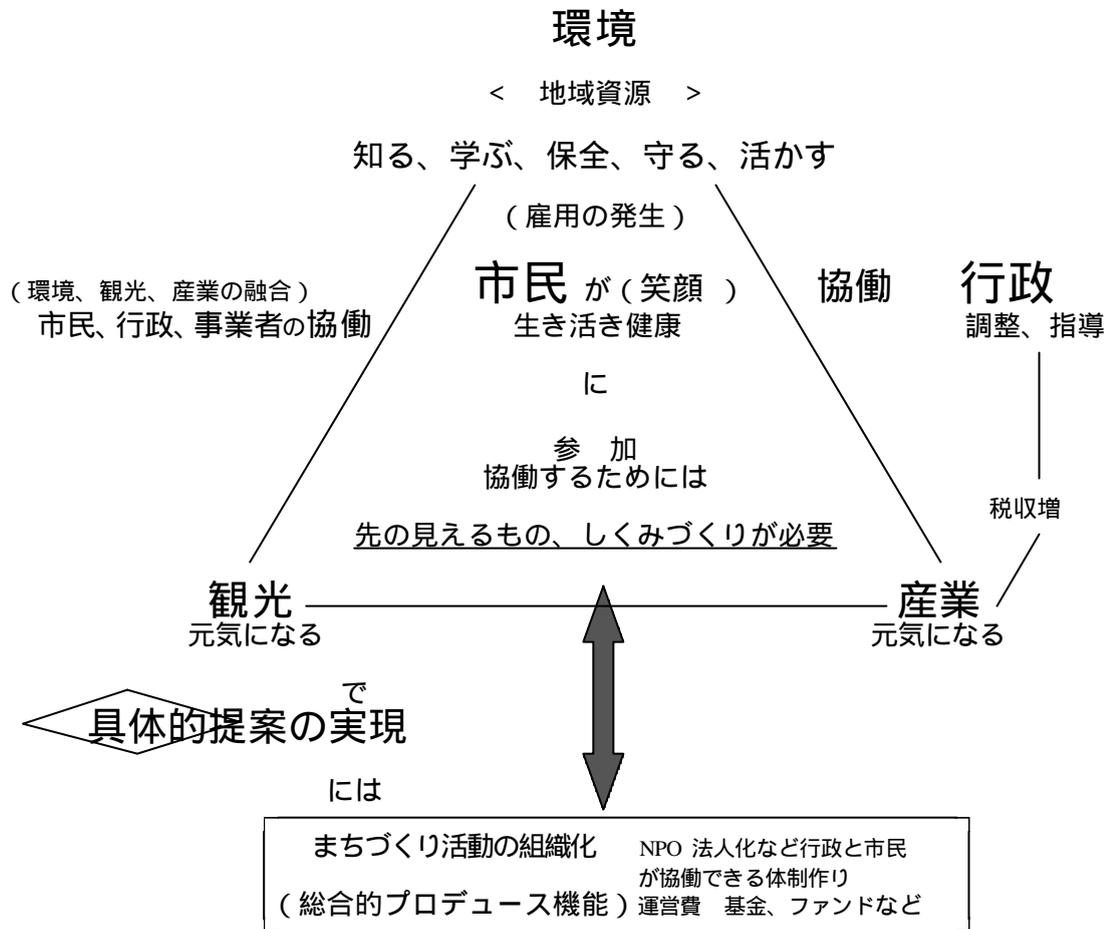
- ・ 奈良や京都のような名所・名物・食事処がない
- ・ PR不足

- ・ 賑わいの里復活プロジェクト（空き店舗の活用や往事のまち並みを通じ賑わいのあった地区の再生をはかる。地産地消(商)(賞)(笑)のコンセプトショップ、ビジネスとボランティアが融合したイベント。雇用創出）
- ・ 健康産業系クラスタープロジェクト（自然系素材関連事業、農林を活用した事業など「安全・安心・健康」をキーワードにした企業の集積をはかる。
- ・ 中小・零細企業を育成するプログラム策定（研修会の開催や各種研究開発機関等との連携を図り、人材を育成する。高齢化、情報化に対応した施設等の充実。融資枠拡大による産業活性化）
- ・ レクリエーション施設の充実（若者を集める）

<産業における現状の問題点>

- ・ 企業の体力の低下
- ・ 空き店舗によるイメージダウン

# 実現へのステップ



## 「河内長野市を元気にする」第2グループの提言

「河内長野市を元気にする」をテーマに話し合う前に、ブレインストーミング形式で、現在の河内長野の課題点と思われることを書き出しました。それを次の六つの項目に分類した上で、課題と考えられていることをクリアしたら、どんなまちになるのかをイメージしてみました。

項目	イメージしたまち
老人福祉・障害者	みんなに やさしいまち
ボランティア活動	社会活動に 参加しやすいまち
行政と市民の協働について	みんなの意見が 行政に伝わるまち
近所付き合いについて	人の心に 触れ合えるまち
学校と地域のかかわり	元気な子どもが 育つまち
その他	安心して 住めるまち

これをベースに協議を重ねた結果、

こころのふれあいと みんなにやさしいまち 安全で 元気な子どもが育つまち
---

という、あるべきまちの姿が見えてきました。

河内長野をこのようなまちにするためには、行政の資料等から次の二つが大きな課題だと考えられます

少子高齢化

財政難

加えて、市民の（高齢化等による）ニーズの多様化は、さらに広がると思われるうえ、行政だけでこれに対応するには難しいと考えられます。

そこで私たちは、

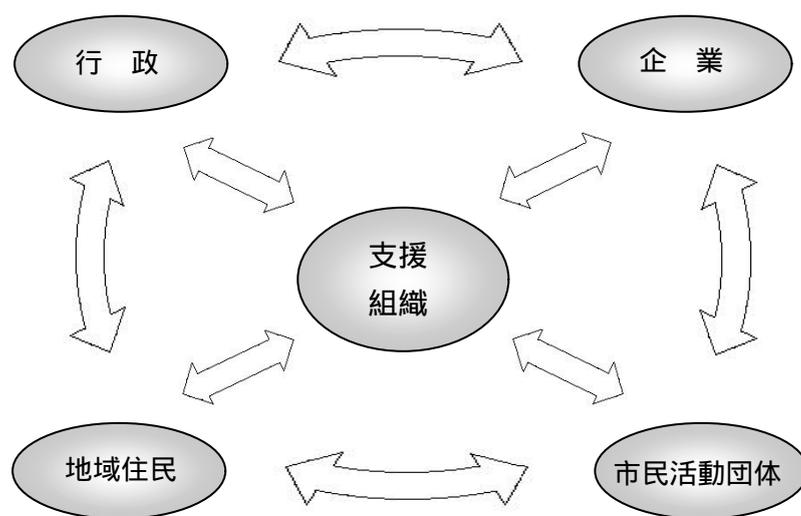
市民と行政が  
協働することが  
必要である

という結論に達しました。

協働を推進させるためには、市民それぞれが自己実現をするための活動を、コミュニティ活動の活性化につなげていくことが不可欠だと考えます。言いかえると市民が楽しみながら、なお且つ充実感を持ってサービスし、サービスを受けることが大切だということです。

市民と市民、市民と行政の協働は、お互いに顔の見える心の通う距離で行うべきと考えます。したがって、そのために必要な情報は自治会など地域に密接した単位で共有し、サービスを提供する人材についても、専門家ではなく地域に根ざした知識と経験の豊かな人たちがそれにあたり、尚、次世代の育成に関わっていけたら、充実感を持った暮らしにつながっていくと考えます。市民が市民にサービスを提供することによって、経費の軽減化が図れますが、財源については、地域企業の社会貢献を含んだコミュニティ・ファンドなどの検討が必要と考えられます。

以上のことを推進していくため、情報の発信、活動団体・地域住民・行政・企業をつなぎコーディネートしたり、各団体の活動についての助言や人材育成を行う継続可能な組織（支援組織）の設立が必要と考えられます。



⇔ は、人、情報、ファンド、サービス等の相互循環

第2グループ資料

	老人福祉・障害者	ボランティア活動	行政と市民の協働について	近所付き合いについて	学校と地域のかかわり	その他
問題点	<p>&lt;障害者&gt; 障害者が地域の小中学校に行くにくい 福祉施設に通いにくい・触れ合いがない。反対の声 活用されていない施設がある 組織としての受け入れ体制</p> <p>&lt;老人福祉&gt; 痴呆症の人が徘徊している</p>	活動したいが動けない やっていることが見えない	何を（どうして）良いかわからない 行政に対する市民の声が自由に出不い	近所付き合いが余りにも乏しいので 例）・独居老人の孤独死・空巢・火災・...	子どもに元気がない？ 子どもが少ない クラブ活動参加が少ない 中学校への給食がない	<p>&lt;安全&gt; 渋滞 治安、交通安全が悪くなっている？（空巢、かっぱらい、暴走族、違法駐車...）</p> <p>&lt;環境&gt; 不法投棄 乱開発 公園不足 休耕田が多い</p> <p>&lt;レジャー&gt; スポーツ、文化、娯楽施設が少ない</p> <p>&lt;産業&gt; 地場作物が売れない</p> <p>&lt;その他&gt; 「個性」がない</p>
	<p>河内長野をアピールする素材はあっても活用されていない 情報が整理されていない 情報発信の場が明らかでない（バラバラ） 市全体を総合的にプロデュースするものがない 市の行事の庁内での横の連絡がない</p>					
原因	<p>&lt;障害者&gt; 理解が進んでいない 施設が不足している 関係者がバラバラ</p> <p>&lt;老人福祉&gt;</p>	拠点施設がない あるもの（キックス）は高い リーダーが少ない やり方が分からない 取り組みがバラバラ 行政との関係が不明確？ （行政からの受託金の要否）	市民に制度が知られていない 市と市民の役割分担がはっきりしていない 市役所、市民とも意識が低い 市の体制が出来ていない （タテ割り）	近所の手を借りなくても良い（便利になりすぎ） 新しい市民が入りにくい意識・制度 自治会間のつながりがない 地域内の互助の仕組みがない 自治会館がいつも閉まっている	運動会が地域行事から学校行事になった 青年団や先生の活動が知られていない 住宅が高い	<p>&lt;安全&gt; 歩道がない まちが暗い 道路が狭い 交番・巡査が少ない 車が増えた バス路線、駐車（輪）場不足</p>
対策（案）	福祉の日制定。毎月24日 福祉の店（会社）認定制度 （福祉精神を实践する店・会社）	1人1ボランティア運動	市職員による地域活性化支援員制度 行政には限界があり、市民が要求ではなく「知恵」を出していく 行政まかせではなく、自分たち市民がいかに「元気で安全なまち」にしていくのか	市民交流だんじり祭り 地域支援システム作り 社会的弱者を地域共同で助け合うようなシステムがない	駅前保育所づくり 小学校併設デイ・ケアセンター 子どもを守る子ども110番員制度 空（余裕）教室を福祉に活用 土日などに学校施設の余裕教室などを利用して、子どもたちと一緒に地域の人々が交流活動	森林の活用整備（産業化）

第4次総合計画まちづくり市民会議  
グループ会議経過報告書

1. 観光・産業・環境グループ
2. 福祉・教育・全般グループ

平成16年3月31日

河内長野市第4次総合計画  
まちづくり市民会議

\*印はそれぞれの意見です

8名が6回にわたり議論した内容要旨です。

**第1回目** 自ら考える「河内長野市を元気にする提言」のポイントを発表しました。

- \* 観光都市河内長野市をめざす
- \* 自然、名所旧跡を活かした観光産業を発展させ町の活性化を目指す
- \* 生き生き健康文化都市の実現をめざして、遊学自然文化の里づくり
- \* 生活を基盤にした産業の活性化
- \* 河内長野市の所与の条件を活かした、心の癒される品格のある重点的に具体的なまちづくり
- \* 関西の軽井沢をめざすなどいいところ、のびているところをアピールする
- \* 自然と人の融合都市、河内長野まるごと博物館に

また、これからの議論のなかで「環境」をどうとらえて議論するのかを検討し、ここでは特定の環境問題ではなく、自然環境として、観光や産業と併せて議論することを確認「観光、産業、環境」をテーマにすることに決めました。提言をまとめるにあたっては河内長野の個性を生かした提言内容にすべきだという点で意見が一致し、次回はそれぞれ河内長野市の「良いところ」(オンリーワンと言えるもの)を持ち寄って議論することになりました。

**第2回** 「河内長野市を元気にする提言」を念頭に置きながらそれぞれ考えた内容を発表しました。

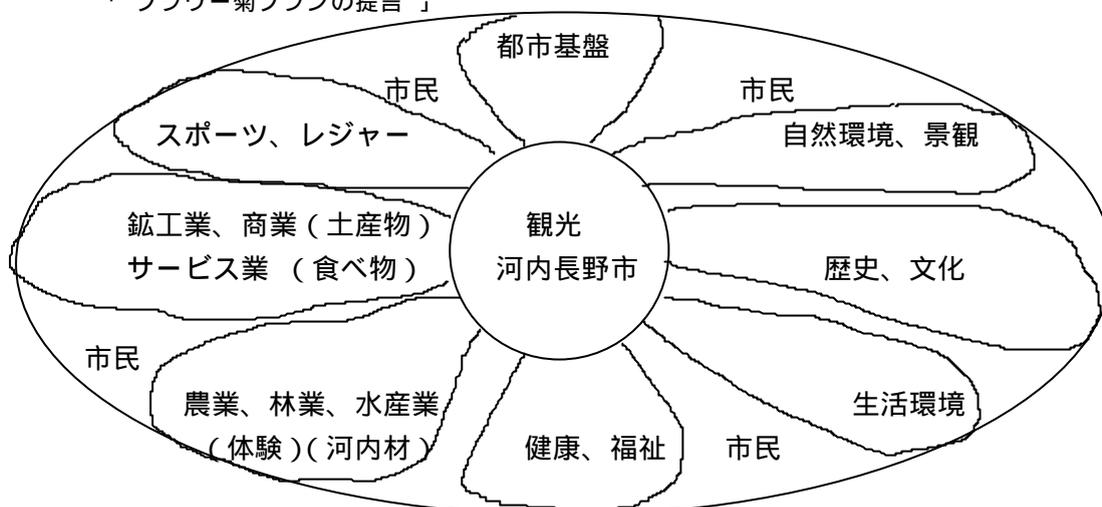
- \* 「南天の都市 河内長野」
  - ・「南天」の名前の由来「難を転ずる」縁起の良さが「安全、安心」「防犯」福祉」を求める市民性にマッチする
  - ・「農作物南天の需要の創造」  
お正月だけでなくクリスマスにも利用できる、縁起の良さをアピールすれば観賞用として新しい需要を生み出す
  - ・「観光スポットとしての集客像」  
ライトアップでクリスマスお正月に若者を集める
- \* 里山再生
  - ・河内長野市の田園風景を守る、田んぼを水の浄化に
  - ・市民参加：田園のオーナー（荘園の領主）を募集する
  - ・近自然工法を採用し、グリーンツーリズムへつなげる
- \* 地域資源の再発見
  - ・地域資源を活性化し、市の魅力を再発見する
  - ・市の特産品「つまようじ」に「食べ物」を組み合わせ魅力を生み出す
  - ・地域とつながりを持ち生きていける「和の暮らし」を産業、観光に活かす

\* 観光都市 河内長野市の都市像は

- ・自然、歴史や文化環境を重視する都市
- ・都市全体が観光交流の場
- ・教育文化都市

観てもらえる美しいまち  
心豊かに

「フラワー菊プランの提言」



- ・市民が支え参加し、市がリーダーシップを発揮し、コーディネートする

\* 集客 = PR

集客とPRの具体例

- ・新ハイキングコースの設定(ヤングコース、シルバーコース)
- ・登山初心者のための、山の案内人の育成、実施
- ・山林資源を活かした特産品づくり(蔓の利用など)
- ・既存の名所旧跡を結ぶ循環観光ルートの作成
- ・自転車のまち作り、自然を生かしたサイクリングロードの整備

\* 岩湧山を使った活性化

岩湧山は登山ガイドに載らないことが多い。いいところをPRし、人を引きつける方策が必要

- ・大阪を一望できる景観や、春、夏、秋、冬の顔があることをしってもらう
- ・若者は何かしたいと思っているがやり方がわからない。きっかけを与え、「おもしろそう」と思わせる「アート・ウォーキング」のように人が集まる、イベントを若者の力で実施し、ボランティアで掃除も行う

\* 河内長野市まるごと博物館

歴史的建造物、巨木、薬草、水車、そこに住む人や生活、産業など河内長野市の地域資源を宝物として登録、河内長野市をまるごと博物館に学習や観光に活かす

全員の発表の要旨を板書し、議論する中で河内長野市にある自然環境資源と共生しながら活かした、観光をキーワードのまちづくりが見えてきました。この提言を実現していくためには、「市民」「行政」「事業者」が一体となって活動すること協働が重要だという点で意見が一致しました。次回は今回の議論をもとにそれぞれの提言とまとめ案を持ってくることを確認しました。

**第3回目** 前回の議論をもとに提言のまとめ案をそれぞれの視点で発表しあいました。前回議論した内容にプラスされた要旨とめざす元気なまちの将来像です

- \* 行ってみたい、住んでみたい魅力ある都市
  - ・市民が元気になる、企業が元気になる、河内長野市（行政）が元気になる
  - ・市内企業の経営基盤の強化、 - 雇用創出 - 税収増 - 行政サービスへ
  - ・人材の育成 - 有識者、高等教育機関、各種研究機関等と連携
  - ・レクレーション施設の充実 - 行政、市民が市内で買い物、休日を過ごす
- \* 安心して暮らせる魅力ある都市へ「安全と観光に重点を置いたまちづくり」
  - ・観光で人びとが交流、ふれあい、活気、思いやり、が生まれ、犯罪の少ない安全なまちへ
- \* 生き生き健康文化都市をめざして
  - ・商工農林業の連携と観光事業の融合
  - ・里自慢づくりの和と輪を広げる

元気なまちの将来像は見えてきました、具体的提案も多く出し合えました、実現に向けて「やる人がいるか、不安」、市民、事業者、行政が協働するためには先の見えるしくみづくりが必要と意見が一致しました。次回までに「河内長野市を元気にする提言まとめ案を代表が作成 してくることになりました。

#### **第4回目** まとめ案を確認

先の見えるしくみづくり⇔「本格的まちづくり推進組織」(総合的プロデュース機能)が必要である 運営費 基金ファンドなど

目 標 「安心して生き生き笑顔で暮らせる健康文化都市へ」

理 念 「自然と共生、健康と観光のまちづくり」

めざすまちのイメージ 次回までに考えてくる

具体的プラン 各自の具体的提案についてまとめて提案書につける

以上のまとめ案の確認と前回発表されていなかった、具体例について議論しました。

- \* リサイクルの推進（ごみの減少、地球温暖化防止）、循環型社会に対応、リサイクルセンター（旧施設の利用）
- \* シルバータウン構想 など

#### **第5回目は** 資料 - について確認しました

2グループとこれまでの内容をそれぞれに発表、会長より全体のまとめ案が提出され議論の結果、会長、各グループ正副代表で調整することになりました。

#### **第6回目は** 資料 - でみてきた観光、産業、環境の問題点を認識し、具体案を実現していくために議論しました。

観光をキーワードにめざすまちのイメージは「歩くまち」

（ハイキングにきてほしいまち）です。

今後の進め方については、資料 - で提言の実現にむけてとして提出することを確認しました。

なお、両グループのまとめについては 会長、各グループ正副代表で検討し全員で確認後、提言することで 意見が一致しました。

## 福祉・教育・全般グループ会議経過報告書

開催日	会議名称	協 議 内 容		
H15年 10月18日	グループ会議 〔全体会議〕 第1回	<p>自己紹介・グループ編成・リーダー、サブリーダーの決定。 次回以降の議論の進め方等について話し合う。</p>		
11月8日	グループ会議 〔全体会議〕 第2回	<p>メンバーの相互理解を深めることを目的とし、参加の動機や参加テーマ（福祉・教育・全般）を選んだ理由などを発表しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周りを見回すと高齢化を実感する中で、社会的弱者を地域共同で助け合えるシステムが必要である。</li> <li>・ 親が介護を必要とする状況になってきた。介護保険を利用するにも、具体的な対応策を教えて欲しい。</li> <li>・ 新興住宅地に住んでおり、近所との交流は希薄である。</li> <li>・ 三世同居で暮らしているが、お葬式など近所で協力し合う風習は残っている。近所の子どもは、どこの子か誰でもわかっている。</li> <li>・ 自分の子どもが大きくなれば、地域の小・中学校の情報が入ってこない。などなど、自分が住んでいる地域の状況を含んだ意見が多く出た。 <b>老人・障害者・子どもたちが、相互扶助により地域の中で生きていくことが必要である。のではということ、共通認識とした。</b></li> </ul>		
11月29日	グループ会議 第1回	<p>福祉・教育・全般をテーマに、当市における現状と課題について話し合った。テーマの福祉、特に障害者・高齢化問題について、グループの中で直接関わっている方たちから、市内の養護学級や障害者の就職状況などの報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口が急増したのに、商店数は横ばい状況である。何をやれば元気になるのか、目玉になるものが商業でなければ何があるのか。</li> <li>・ 全国的に商店街は寂れている。当市も例外ではない。</li> <li>・ 人・風・緑・水・歴史と素材があっても活用されていない。</li> <li>・ 市企画の文化財ボランティアの募集には、多くの人に参加していた。</li> </ul> <p>などなど、いろんな方向からの意見が出た。 次回までの宿題：各自の課題・不満なこと・心配なことをカードに書き出してくる。</p>		
12月6日	グループ会議 〔全体会議〕 第3回	<p>各自が持ってきた課題カードを項目別に分類する。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                 項目 老人福祉・障害者 行政と市民の協働について 学校と地域とのかかわり             </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                 ボランティア活動 近所づきあいについて その他 *結果は別紙の通り             </td> </tr> </table> <p>分類後、以下のような意見が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民と行政の協働をどう作るか。市民でやることは何か。</li> <li>・ 協働を追及していくと、活動の場が必要とかがでてる。</li> </ul>	項目 老人福祉・障害者 行政と市民の協働について 学校と地域とのかかわり	ボランティア活動 近所づきあいについて その他 *結果は別紙の通り
項目 老人福祉・障害者 行政と市民の協働について 学校と地域とのかかわり	ボランティア活動 近所づきあいについて その他 *結果は別紙の通り			

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所づきあいがなく、市に要望できない。</li> <li>・ 近所でやってもらうのに、金を払って世話になるのも一つの方法。</li> <li>・ いろんな活動のコーディネーター機能があればよい。</li> <li>・ ボランティア・アドバイザーがキックスで相談に乗ることになっている。</li> <li>・ 共通項は「市民と行政の協働」だろうか。相互扶助だと狭くなるけど・・・</li> <li>・ 行政にお願いしても解決しないし、市民だけでも出来ない。</li> </ul> <p>これらを集約すると、市民と行政が協働することにより、ほとんどの問題が解決できるのではないか。という意見に賛同の声が上がり、第2グループの統一テーマを「市民と行政の協働」とすることに決定。</p>
12月14日	グループ会議 第2回	<p>全体会議第3回(12/6)欠席者への、当日の分類結果の説明と確認。 前回決定した「市民と行政の協働」で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働していないことでの問題点と原因。</li> <li>・ 協働がうまくいっていることでよい点。について話し合ったが、これという結果に結びつかず、逆の発想で、6項目に分類した課題を解決したら、どんなまちになるかをイメージしてみた。</li> </ul> <p>老人福祉・障害者 みんなに やさしいまち ボランティア活動 社会活動に 参加しやすいまち 行政と市民の協働について みんなの意見が 行政に伝わるまち 近所付き合いについて 人の心に 触れ合えるまち 学校と地域のかかわり 元気な子どもが 育つまち その他 安心して 住めるまち</p>
H16 1月24日	グループ会議 (全体会議 第4回)	<p>12月14日のグループ会議第2回でイメージした「理想のまち」を探り、それを実現するためにはどうすればいいのかを考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全部を満たすのは、「安心して住めるまち」だと思う。</li> <li>・ 「市民と行政の協働」もあるが、「市民と市民の協働」もある。</li> <li>・ 「連携」がキーワード。市民間の連携、自治会どうしの連携。</li> <li>・ PTA、青少年健全育成会、子ども会、地区児童会などの組織を活性化し連携できないものか、中でも市民と行政の協働システムとして。</li> <li>・ 自治会を再生というか今までとは違うかたちで活性化(NPOとか)することを中心に話が進んだ。</li> </ul>
2月14日	グループ会議 第3回	<p>前々回イメージした「理想のまち」の6項目から</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>こころのふれあいと みんなにやさしいまち 安全で 元気な子どもが育つまち</p> </div> <p>という、あるべきまちの姿が見えてきた。 しかし、人口の社会減(特に高齢人口が多くなる)、税収減、交付税減、という</p>

		現状の中で、未来に負の遺産を残さないためには、ボランティア活動などで補っていくことは必至と考えられる。そのための「システム」は必要であるが、前回から話題になっている自治会の活性化だけでなく、もっと市民が能動的に参加するかたちを考えていくべきである。
2月21日	グループ会議 （全体会議 第5回）	グループ会議第3回(2/14)の「システム」づくりについて話を進める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何をするにも財源が必要と考える。基金(市民一人500円程度集める・・)をまちづくりに使う。</li> <li>・ 大学のサテライトなどで(単位が取れる)人材の養成を・・・。</li> <li>・ 地域の人材発掘も大切。</li> <li>・ 「ながの人間マップ」に取り組もうと考えている。などの意見が出た。</li> </ul> 「システム」づくりのためには、 どんな人材が必要か(たとえば、ヘルパーの資格を持った人・手話の出来る人・NPOの立ち上げに詳しい人・・) どんな情報が必要か(どこで何をやっているのか)を、整理する必要がある。
3月6日	グループ会議 第4回	<u>市民と行政が協働する必要がある</u> という結論に達し、そのための「システム」づくりに話は進んだが、もう少し掘り下げた意見が出された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財源について・・・地域企業の社会貢献を含んだコミュニティ・ファンドの利用。</li> <li>・ 協働における行政の役割・・情報提供、サポート。</li> <li>・ ボランティア活動の拠点・・・そこに行けば全部がわかる。</li> <li>・ 情報収集センターは、歩いて3分??・・・みんなが行ける。</li> <li>・ 情報の開示は、ITの他に方法が必要・・・みんなが見れる。</li> <li>・ 地域に貢献したいという人は増えている。</li> <li>・ コーディネートする人が必要。等等・・・</li> </ul> 今までに出た意見を整理して「第2グループの提言」を作成。
3月13日	グループ会議 （全体会議 第6回）	「第2グループの提言」を確認。 グループ会議第4回(3/6)の続きとして、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コーディネーターが必要。</li> <li>・ 市内の活動団体間のつながりが無い。</li> <li>・ 前々回も自治会の活性化の話が出たが、各自治体で積極的にやろうという人がいないと出来ない。</li> <li>・ 人材は地域にいたると思うが、それを引き出していく方法が必要。</li> </ul> などの協議の後、「第2グループの提言」に以下のことを追加することに決定 情報の発信、活動団体・地域住民・行政・企業をつなぎコーディネートしたり各団体の活動についての助言や人材育成を行う継続可能な組織(支援組織)の設立が必要と考えられます。という文章と協働を表すイメージ図。